

STOP！転倒災害プロジェクト2015

～あせらない 急ぐ時ほど落ち着いて～

転倒災害は、どのような職場でも発生する可能性があります。職場での転倒の危険性は、働くすべての人が問題意識を持って原因を見つけ、対策をとることで減らすことができます。「転倒」という身近なテーマから職場の安全意識を高め、安心して働ける職場環境の実現に向けて、「STOP！転倒災害プロジェクト2015」を開始します。

【主唱者】

厚生労働省、中央労働災害防止協会、建設業労働災害防止協会、陸上貨物運送事業労働災害防止協会、林業・木材製造業労働災害防止協会、港湾貨物運送事業労働災害防止協会

【プロジェクト実施期間】

平成27年1月20日から12月31日まで

プロジェクトの効果を上げるため、積雪や凍結による転倒災害の多い2月と全国安全週間の準備月間である6月を重点取組期間とします。

「STOP！転倒災害特設サイト」を開設します！

転倒災害の現状からその対策まで、事業場での取り組みに役立つ情報を集約してご提供します。

<厚生労働省 ホームページ>

「STOP！転倒災害プロジェクト2015」で検索

STOP！転倒

1 転倒災害防止に向けたさまざまな対策の紹介

転倒災害の防止に効果のあった事業場の取組好事例、転倒災害防止に役立つ保護具や用具などを紹介しています。



(資料出所：中央労働災害防止協会)

2 転倒予防の知識養成セミナーの紹介

転倒を防ぐための実習を交えて基礎知識を身につけるセミナー、転倒災害防止の基本となる「4S活動」や「KY活動」をテーマとした研修を実施します。

職場の安全、安全週間に関する情報はこちらでも発信しています！

中央労働災害防止協会 <http://www.jisha.or.jp/>

あなたの職場は大丈夫？転倒の危険をチェックしてみましょう

転倒災害防止のためのチェックシート

チェック項目		<input checked="" type="checkbox"/>
1	身の回りの整理・整頓を行っていますか 通路、階段、出口に物を放置していませんか	<input type="checkbox"/>
2	床の水たまりや氷、油、粉類などは放置せず、 その都度取り除いていますか	<input type="checkbox"/>
3	段差のある箇所や滑りやすい場所などに 注意を促す標識をつけていますか	<input type="checkbox"/>
4	安全に移動できるように十分な明るさ（照度） が確保されていますか	<input type="checkbox"/>
5	ヒヤリハット情報を活用して転倒しやすい 場所の危険マップを作成し、周知していますか	<input type="checkbox"/>
6	職場巡視を行い、通路、階段などの状況を チェックしていますか	<input type="checkbox"/>
7	荷物を持ちすぎて足元が見えないことは ありませんか	<input type="checkbox"/>
8	ポケットに手を入れながら、人と話しながら、 携帯電話を使いながら歩いていませんか	<input type="checkbox"/>
9	作業靴は、滑りにくさを考えて選んでいますか	<input type="checkbox"/>
10	ストレッチ体操や転倒予防のための運動を 取り入れていますか	<input type="checkbox"/>

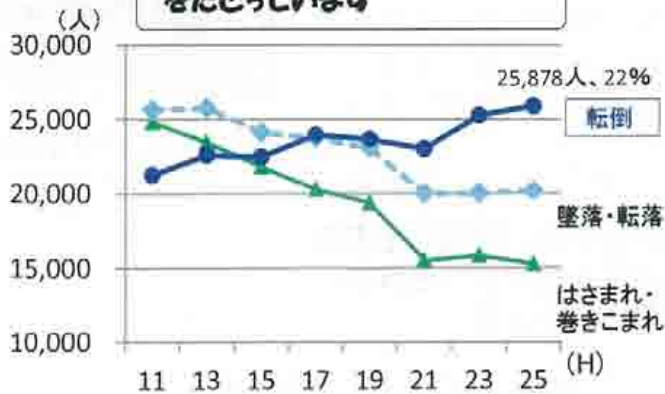
チェックの結果はいかがでしたか？ 問題のあったポイントが改善されれば、きっと作業効率も上がって働きやすい職場になります。

どのように改善するか「安全委員会」などで、全員でアイデアを出し合いましょう！

職場での転倒事故を減らしましょう！

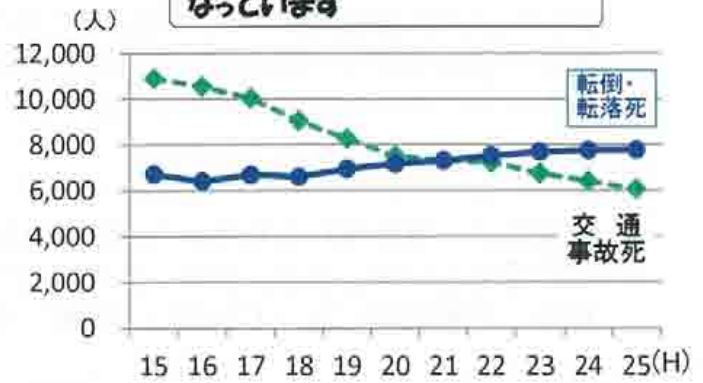
仕事中に転倒して4日以上仕事を休む方は、年間26,000人ほどで、労働災害の種類では最も多くなっています。特に高齢者が転倒した場合は重症化する割合が高く、日常生活での不慮の事故による死因の中でも、転倒・転落死は交通事故死を超えています。

転倒災害は年々増加の一途をたどっています



出典：厚生労働省 労働者死傷病報告「事故の型別死傷者数の推移」

日常生活でも転倒・転落事故は交通事故よりも死亡者が多くなっています



出典：厚生労働省 人口動態統計「死因別死亡者数の推移」

あなたの職場では、このような災害が起こっていませんか？

業種	災害の発生状況
自動車製造業	<p>帰宅のため会社の事務所から駐車場へ向かう途中に、凍結した路面に足を滑らせ転倒し、尻もちをついた。</p>
ケガの程度	
休業1カ月	
対策のポイント	

- 敷地内の通路を除雪する、融雪剤を散布する
- 雪道や凍結路面に適した滑りにくい靴を履く
- 足元が見えにくい箇所は照明を設置して注意を促す
- 身体を強打しないよう、クッション性のある帽子・衣類を着用する

業種	災害の発生状況
飲食店	<p>空の容器を抱えた状態で従業員通路の階段を降りていた時に、足元が見えず階段を踏み外してバランスを崩し転倒した。</p>
ケガの程度	
休業2カ月	
対策のポイント	

- 運ぶ容器を小分けにするなど足元が見えるようにする
- 大きな荷物を運ぶときは台車を使用する
- 危険箇所には表示して注意を促す
- 階段の昇降はゆっくりを心がける

業種	災害の発生状況
小売業	<p>厨房で揚げ物をバックに詰めるため、容器を取ろうと前方にかがんだところ、床に飛び散った油で滑ってバランスを崩し転倒した。</p>
ケガの程度	
休業10日間	
対策のポイント	

- 作業の都度、床の油などは放置せず取り除く
- 滑りにくい靴底の履物を着用する

業種	災害の発生状況
小売業	<p>バックヤードで商品の検品中に、レジのヘルプ連絡を受けて店内に向かう途中、台車に足を引っかけてバランスを崩し捻挫した。</p>
ケガの程度	
休業1カ月半	
対策のポイント	

- 通路に物を置かない、整理・整頓をする
- 作業通路を定め、定期的に職場を巡視する
- 危険箇所には表示して注意を促す

冬期の転倒災害防止のポイント

積雪・凍結などの転倒災害のリスクが高くなる冬期間は、以下の対策が特に重要です。

◇天気予報に気を配る

寒波が予想される場合などには、労働者に周知し、早めの対策を実施しましょう。

◇時間に余裕をもって歩行、作業を行う

天候による交通機関の遅れが見込まれる場合は、時間に余裕をもって出勤するようにし、落ち着いて作業をするように心がけましょう。屋外では、小さな歩幅で靴の裏全体を付けて歩くようにしましょう。



<ヒートマットの設置例>

◇駐車場の除雪・融雪は万全に、出入口などに注意する

駐車場内、駐車場から職場までの通路を確保するため、除雪や融雪剤の散布を行いましょう。また、出入口では転倒防止用マットを敷き、夜間は照明設備を設けて明るさ（照度）を確保しましょう。

◇職場の危険マップの作成、適切な履物、歩行方法などの教育を行う

職場内の労働者が転倒の危険を感じた場所の情報を収集し、労働者への教育の機会に伝えるようにしましょう。また、作業に適した履物、雪道や凍った路面上での歩き方を教育しましょう。

転倒防止に役立つ靴と保護具を活用しましょう

雪道を安全に歩くには、靴選びが大事！

<靴選びの3つのポイント>

- ▶ 防滑性：靴底が滑りにくいこと
(やわらかいゴム底のものは、ゴムがすり減っていないかもしっかり確認しましょう)
 - ▶ 撥水性・防水性：水分が靴の中に入り込まないこと
 - ▶ 保温性：靴の中を温かく保てること
- このほかにも、靴の重量やバランス・屈曲性・つま先の高さもポイントになります。



柔らかいゴムを使った靴底は、路面に対する密着力が強いため滑りにくくなっています。

足のサイズに合った靴を選びましょう！

サイズが小さい靴：足指が自由に動かしにくく、バランスを崩したときの踏ん張りが効かなくなる
サイズが大きな靴：歩行のたびに足が前後斜めに動いて、靴のつま先やかかところが足の動きに追従できなくなる

平成26年8月「労働災害のない職場づくりに向けた緊急対策」の状況報告

【平成26年労働災害発生状況(速報値)】

		7月末日速報	⇒	12月末日速報	主な取り組み
全産業	死亡	26人(+5人 23.8%増)	⇒	41人(+5人 13.9%増)	<ul style="list-style-type: none"> ・林業関係団体に死亡災害防止対策の徹底を要請(3団体) ・建設関係団体等に災害防止対策の徹底を要請(16団体) ・労働災害のない職場づくりに向けた緊急要請を実施(320団体) ・「年末年始無災害運動」について、兵庫県及び県内市町に対し、広報要請(61団体)
	死傷	2,263人(+129人 6.0%増)	⇒	4,176人(+32人 0.8%増)	
製造業	死亡	7人(+6人 600.0%増)	⇒	11人(+4人 57.1%増)	<ul style="list-style-type: none"> ・食品製造業に自主点検、個別指導等を実施 ・化学工業、金属製品製造業を中心に個別指導を実施
	死傷	598人(+36人 6.4%増)	⇒	1,065人(+19人 1.8%増)	
建設業	死亡	9人(+2人 28.6%増)	⇒	12人(+3人 33.3%増)	<ul style="list-style-type: none"> ・「墜落・転落」災害防止を重点とした個別指導等を実施 ・発注者との安全パトロールを実施
	死傷	310人(+44人 16.5%増)	⇒	572人(+31人 5.7%増)	
陸上貨物 運送事業	死亡	2人(△2人 50.0%減)	⇒	3人(△2人 40.0%減)	<ul style="list-style-type: none"> ・陸上貨物運送事業に自主点検を実施 ・トラックからの「墜落」災害防止及び「荷役作業の安全対策ガイドライン」の周知啓発を重点とした個別指導を実施
	死傷	254人(△52人 17.0%減)	⇒	485人(△55人 10.2%減)	
第三次産業					
小売業	死傷	253人(+32人 14.5%増)	⇒	473人(+22人 4.9%増)	<ul style="list-style-type: none"> ・「安全推進者」の配置による自主的安全管理活動の促進を重点とした個別指導、集団指導等を実施
社会福祉施設	死傷	130人(+33人 34.0%増)	⇒	247人(+23人 10.3%増)	
飲食店	死傷	77人(△10人 11.5%減)	⇒	149人(△21人 12.4%減)	

出典：死亡災害報告、労働者死傷病報告

注意：「死傷」は、休業4日以上之死傷災害を指す。増減は対平成25年同月比

労働災害の発生動向(事故の型別)

- 死亡災害は、「交通事故」は減少しているが、「墜落・転落」、「はさまれ・巻き込まれ」は依然として増加している。
- 死傷災害は、「墜落・転落」、「はさまれ・巻き込まれ」などが依然として増加している。

	7月速報		12月速報	
	死亡者数	前年同期比	死亡者数	前年同期比
墜落・転落	9	+4 (+80.0%)	15	+7 (+87.5%)
交通事故 (道路)	4	△5 (△55.6%)	7	△5 (△41.7%)
はさまれ・ 巻き込まれ	4	+3 (+300.0%)	9	+6 (+200%)
激突され	3	+2 (+200.0%)	3	+2 (+200%)
崩壊・倒壊	3	±0 (±0.0%)	4	±0 (±0.0%)
上記以外の 事故の型	3	+1 (+50.0%)	3	△5 (△62.5%)
合計	26	+5 (+23.8%)	41	+5 (+13.9%)

(出典:死亡災害報告)

	7月速報		12月速報	
	死傷者数	前年同期比	死傷者数	前年同期比
転倒	448	+11 (+2.5%)	828	+5 (+0.6%)
墜落・転落	396	+37 (10.3%)	729	+55 (+8.2%)
はさまれ・ 巻き込まれ	325	+26 (+8.7%)	587	+49 (+9.1%)
動作の反動 無理な動作	243	△4 (△1.6%)	468	+8 (+1.7%)
切れ・こすれ	177	+41 (30.1%)	305	+4 (+1.3%)
交通事故 (道路)	176	+37 (+26.6%)	335	+21 (+6.7%)
上記以外の 事故の型	498	△19 (△3.7%)	924	△110 (△10.6%)
合計	2,263	+129 (+6.0%)	4,176	+32 (+0.8%)

(出典:労働者死傷病報告)